

第4学年「道徳の時間」学習指導案

期 日 平成24年11月22日(木) 5校時
児 童 春光小学校4年2組
男子14名 女子17名 計31名
授業者 教諭 金田 阿佐美

1 主題名 「正直」
2 資料名 「新次のしょうぎ」(文
溪堂)

1-(4)
過ちは素直に改め、正直に明るい心で
元気よく生活する。

3 ねらいとする価値

うそやごまかしをしないことを含め、自分自身に正直であることで、明るい心で、元気に生活することができる。正直に生きることは、自分の人生をより善く生きるために欠かせない道徳的価値である。しかし、現実には自分の立場や損得を考え、自分の心の正直さに従えない場合も少なくない。過ちを犯したときに素直に反省し、すぐに正直に伝えて良心に従って生きようとする実践的意欲をはぐくみたい。

4 児童の実態

学習でも遊びでも、自分の甘えやわがままからつい嘘をついたり、ごまかしたりしたいという葛藤は生活の中に常に存在している。児童は、その中でいつも良心に従って正しい選択ができているとは言い難い。正直に、誠実に生きることは自分自身の快・不快の感情に向き合うことから始まる。日々の生活で流されていたごまかしに今一度向き合い、自らより善く生きる力を伸ばすことができるようにしたい。

5 資料について

将棋の勝負でごまかしをして、勝利する新次が主人公である。新次は、自分が勝ちたい気持ちを押さえることができずにごまかしをしてしまう。さらにもう一勝負する間も、自分の良心に苦しみながらもごまかし続ける。新次は、帰り道に自分のした事を後悔し、あやまらなければと涙を流すが、その後の行動については描かれていない。

良心の呵責に苦しみながらも、ごまかし続けてしまった新次の気持ちを共感的に捉えさせることで、自分自身の体験と重ね合わせ、自分の良心をごまかし続けることへの後悔の念に向き合わせたい。さらに、資料には描かれていないこの先の新次の行動を考えさせることで、より自分の生活に近づけて考えさせ、道徳的態度を育てていきたいと考える。

なお、主人公と自分と重ね合わせて考えさせるために、何度か資料を読み直し、主人公の道徳的心情の変化を深く捉えることができるようにしたい。

6 他の教育活動との関連

学校生活(全員遊び 家庭学習 友人との関わりなど)
家庭生活

7 資料分析

資料の内容 (本文の記述, 解説など)	発問のねらい	基本発問	児童の心の動き
苦しさをかくすために、新次はよけいにこにこした	新次の、不正をごまかそうとする気持ちに共感させる	新次は、苦しさをかくすためににこにこした時、どんなことを考えていたのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ばれたらまずい。 ・今更言いづらい。 ・ばれたらおじさんはもう将棋をしてくれないかもしれない。
↓	↓	↓	↓
新次は、悲しくなり、かさを持つ手になみだがこぼれた。	新次の、不正を後悔している気持ちに共感させる。	新次はなぜ悲しくなったのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・正直に言えなかったから ・おじさんに嘘をついてだまして勝ったから ・卑怯な自分が悲しかった ・悪いことをしてしまったから
↓	↓	↓	↓
雨の中、自分のしたことを後悔し、涙を流す新次	正直に、明るく生活するための行動について考えさせる。	このあと、新次はまっすぐ家に帰ったのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・あやまりに行った。このままだと嫌だと思うから。 ・あやまらなければいけないと思ったけれど、もう二度としないと心にちかかって、あやまりには行かなかった。 ・あやまりに行かず、もうおじさんとも顔を合わせないようにするようにした。

↓

まちがいをした時は、すぐにあやまることが大切。

9 本時のねらい

過ちはすぐに素直に改め、正直に明るく生活しようとする態度を育てる。

10 本時の展開

段階	教師の働きかけ(主な発問)	予想される児童の心の動き	留意点と評価の視点
道徳的価値の方向付け	<p>1 ねらいとする価値への方向付けを行う。 「正直50円分」の学習を想起させる。</p> <p>2 主題を提示して、本時に考えることを明確にする。 ○正直に行動することについて、もう一度深く考えていきます。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">正直</div>	
道徳的価値の追求・把握	<p>3 資料「新次のしょうぎ」を読んで、道徳的価値について考えさせる</p> <p>○新次は、苦しさをかくすためににこにこした時、どんなことを考えていたのだろう。</p> <p>○新次はどうして涙を流したのだろう。</p> <p>◎新次はこの後まっすぐ家に帰ったのだろうか。</p> <p>4 本時の資料からねらいとする価値を一般化させる。 ○まちがいをしてしまった時は、どうすることが大切なのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・悪い事をしたなあ。 ・本当は謝りたくて苦しい。 ・正直に言えなかったから ・おじさんをだましてしまった。 ・悪いことをしたことが苦しかった。 ・言えなくて苦しかった。 ・言えない自分が悲しかった。 ・卑怯な自分が悲しかった ・あやまりに行った。このままだと嫌だと思うから。 ・あやまらなければいけないと思ったけれど、もう二度としないと思心にちかかって、あやまりには行かなかった。 ・あやまりに行かず、もうおじさんとも顔を合わせないようにした。 ・あやまりには行けなかったけど、後日あやまりにいった。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">まちがいをした時は、すぐにあやまることが大切</div>			

道徳的価値の内面化	<p>5 道徳ノートを使って、自己認識を深化させる。</p> <p>○まちがいをすぐに言えなくて苦しかったり、すぐに言えてスッキリした経験はありますか。</p>	<p>・おにごっここのとき、タッチされたのに「されてない」と言った。後から正直に言いづらくなった。今はちゃんとすぐ言えばよかったと思う。</p> <p>・</p>	
実践への意欲化	<p>6 教師の説話を行う。</p> <p>7 学習の感想を書き、道徳的実践意欲を高める。</p> <p>○今日の授業を終えて、心に残ったことを書きましょう。</p>		

1.1 板書計画

